新文化
出版界唯一の専門紙
株式会社
新文化通信社
郵便番号　170-0005
東京都豊島区南大塚2-39-7　ヤマモト大塚ビル
電話　03-3942-5561
FAX編集03-3942-5568
振替東京00170-7-56511
発行人　丸島 基和
本紙購読料金
半 年…15,000円（税込）
（毎週木曜日発行）
Shinbunka online
www.shinbunka.co.jp/

教育と文化の
創造のために
専門のサービスを
いたしております
株式会社 日教販
http://www.nikkyohan.co.jp/
本 社　〒112-0004
東京都文京区後楽1-4-25
☎（03）3814-2111㈹
戸田センター　〒335-8522
埼玉県戸田市上戸田4-2-33
☎（048）441-9311㈹

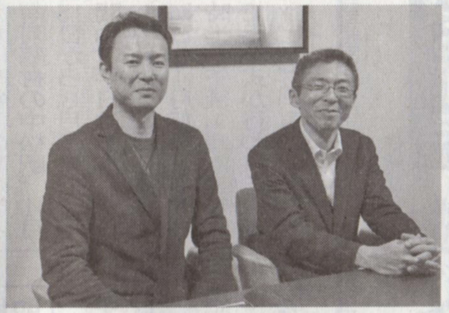
熊本地震から1年　被災書店のいま　前編

昨年4月16日の熊本地震からまもなく1年を迎える。震災の影響により最後まで休業を余儀なくされていた熊本市内のTSUTAYA AVクラブ田崎店と、紀伊國屋書店熊本はません店がいよいよ営業を再開するなど、〈書店の復興〉は着実に進んでいる。しかし一方で、経営を圧迫する損害費用や特需の反動、不透明な将来への不安など、重い現実ものしかかる。当時の状況と、それぞれの事情を抱えた現地の今を2週にわたってレポートする。（冨田 薫）

TSUTAYA AVクラブ　田崎店オープン　4・21

全19店の復旧完了へ

ニューコ・ワン


杉山専務㊧と麻井取締役

3月下旬、平日の雨にもかかわらず多くの客で賑わうニューコ・ワンの旗艦店、蔦屋書店熊本三年坂（中央区）。昨年、リニューアル工事の只中で被災し、水道管の破裂などで開店延期に追い込まれた。ようやくオープンできたのは2カ月後の6月10日のことである。

被災月内に11店再開

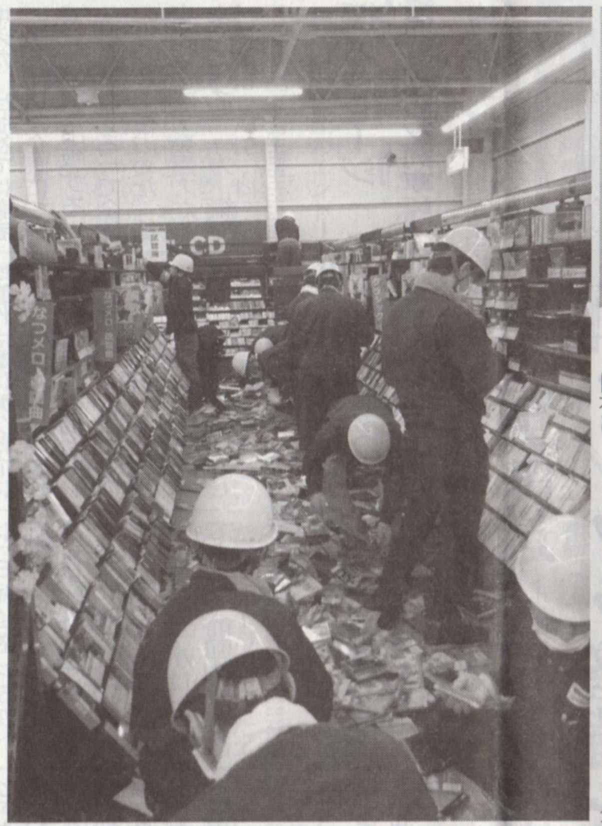
日販・CCCが全面支援

営業再開めぐり〝せめぎ合い〟も

同社は、TSUTAYAのFC店を中心に熊本県内だけで19店を運営し、その全店が休業に追い込まれた。東区にあった本社（現在は蔦屋書店熊本三年坂5階に移転）も天井が崩落したが、一部のスペースと駐車場を物資の集積所として活用し、本部機能は同じ東区にあるTSUTAYA AVクラブ健軍店に移管した。

本社には、日販とカルチュア・コンビニエンス・クラブグループから各50人が、物資を持って支援に駆けつけた。水、米、離乳食、生理用品、ガソリン、資材――。

「従業員とその家族のニーズをLINEで共有し、支援物資を各店にピストン配送していった」（麻井朗取締役）。


TSUTAYA AVクラブ御領店（東区）での復旧作業

従業員・家族のニーズを共有

出社が可能だった従業員と取引先の尽力で、4月20日の同玉名店（玉名市）を皮切りに同月中に11店を再開させた。

ただ杉山純司専務は、「一刻も早く各店を開けたかったが、一部のスタッフから『こんな大変な時に（再開させるのか）』といった声もあり、そのせめぎ合いだった」と、非常時下で緊迫のやりとりがあったことを明かす。それでも、最終的にお客を第一に考えた方針に理解を得られた。

実損3億円　販売ロス入れると倍に

以降、蔦屋書店熊本三年坂を含めて順調にオープンさせていったが、TSUTAYA AVクラブ田崎店（西区）だけは建物の損壊や契約の問題で時間がかかった。最終的には同じオーナーの保有する区画内のすぐそばに移転することが決定。4月21日、以前より100坪広いワンフロア40

1年ぶり営業

入店施設の大

紀伊國屋書店　熊本はません店

もう1店、およそ1年ぶりとなる4月20日にシャッターを開けるのが紀伊國屋書店熊本はません店（南区）である。入居する「ゆめタウンはません」の改修工事に時間を要した。

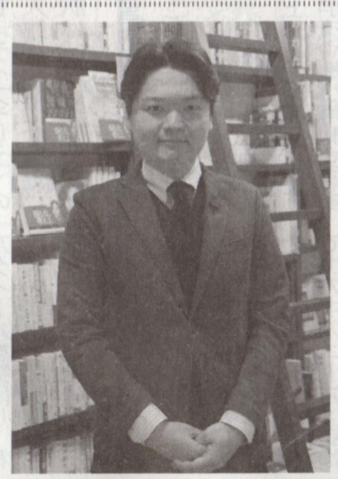
天井パネルの崩落、照明設備の落下、スプリンクラーの誤作動など、大規模な被害を受けた同店。大部分の什器は再利用できない状態だった。

店内整理は地震が発生した翌月の5月に入ってから開始。余震が続いていたため、時間を制約された状況下での作業を強いられた。

商品の搬出は、日販の力も借りて6月27日から4日間をかけて実施した。

物心両面の支援に感謝

長崎書店　長崎健一社長



「経験したことのない事態に直面して先行きが見えず、『この先どうなってしまうんだろう』と暗澹たる気分になっていました。長崎書店（中央区）は建物にヒビが入るなど、経営にも大きな影響を被っています。後から分かってきた被害も少なくありません。

被災者に寄り添う…「そっと営業続けた」

当時、長崎次郎書店（同）は4月18日から時短営業を、長崎書店は19日から仮営業を始めました。意識したのは、『いつも通り開いてますよ』という状態をみせること。

街には〈がんばろう〉といった文言が溢れていました。それはその通りだし、実際頑張らないといけないのだけど、打ちひしがれている人にとっては負担にもなるのではないか。

だから長崎書店は、いつも通り、どんなメンタルの人が来ても大丈夫なように、そっと営業を続けました。それは、長く商売をしているなかで自分が求めてきた理想の姿でもあり、そうした意味において改めて自分のメンタリティを確認できました。

震災後の売上げは、他店の休業などもあり上がっていますが、その利益では損害分はまかなえないし、業界のダウントレ

この人　この仕事

上ノ空代表取締役

横里　隆氏

「ダ・ヴィンチ」時代の人脈活かす

新会社で第1作目刊行

2001年から10年間にわたり、総合文芸誌「ダ・ヴィンチ」（KADOKAWA）の編集長を務めた横里隆氏（51）は現在、㈱上ノ空（東京・港区）の代表取締役としてだけでなく、出版に関わる様々な事業を手がけ、多忙を極めている。

読者、大学サークル、出版業界関係者などが世界に紹介したい「マンガ」「アニメ」「ラノベ」「エンタメ小説」の各20作品を選出し、ネット投票によって各ジャンルのベスト1を決めるイベント「SUGOI JAPANアワード」（主催＝読売新聞社）には、横里氏が企画段階から携わり3回目を迎えた。今回も実行委員会の事務局長として活動した。

また、横里氏は漫画家・山岸凉子氏のエージェント業務も行っている。「週刊モーニング」（講談社）で隔月連載している「レベレーション」だけでなく、昨秋から冬にかけて東京・文京区の弥生美術館で開催された「山岸凉子展『光―てらす―』―メタモルフォーゼの世界―」のサポート業務も行った。

さらに小説家・橋口いくよ氏が16年に設立したハリウッドファクトリーでは同社の役員として、クラウドファンドによるアニメ「少年ハリウッド」完全版の制作やスマホゲーム制作のサポート業務を行っている。

このような活動はすべて「ダ・ヴィンチ」での仕事で培ったネットワークから生まれたものである。「『ダ・ヴィンチ』時代、雑誌の企画だけでなく、書籍、ムックを含めると、年間100本近くの企画を具現化してきた。メディアファクトリー（現KADOKAWA）を辞めた後も、作家、編集者が引き続き協力してくれた」。

そんな横里氏が久しぶりに書籍を手掛けた。Drスティーブン・トルドー『優しいのに無敵』（上ノ空発行、サンクチュアリ出版発売）は、他人を打ち負かさずに人生で成功するための方法を綴ったビジネス心理学書である。

著者がいう「成功」は、〝Success〟ではなく、「共に栄える」「進化する」など多様な意味も含んだ〝Thrive（スライヴ）〟を指す。その理論に共感した横里氏は「この方法論を日本で紹介したい」と思い、上ノ空で刊行することを決意。10カ月の制作期間を経て、4月11日に発売する。

現在も数々のイベントを企画しているが、そのうちの一つは2016年まで行われていた「東京国際文芸フェスティバル」に代わる新たな文芸イベントだという。

「自ら行動することで様々なイベントを具現化していきたい」と今後の抱負を語った。（浦）

書店営業ならおまかせ下さい!!

進化し成長する NOA-WorksJ